

小松ミュージアム



友の会リポート



第25号

令和5年3月31日

編集・発行

小松ミュージアム友の会

〒923-0903

小松市丸の内公園町19

TEL(0761)22-0714

FAX(0761)21-7683

ごあいさつ

小松ミュージアム友の会

会長 宮川 信之

今年の冬は例年に見られないような、12月から降雪が始まりましたが、漸く峠が過ぎたようであります。また、今まで続いていたコロナ禍も4年目に入り、ウイルス感染症も軽くなりつつあり、マスク着用も緩やかになりそうであります。暖かな気持ち待ち受ける、名実ともに春の到来になってきました。

ところで、昨年秋のバス研修では湖南を散策し、その一つとして平家終焉の地である、平家総大将平宗盛・清宗親子の冢を訪れました。忘れかけていた親子恩愛の情がフラッシュバックしたようでありました。

平家物語(11巻第17大臣殿被斬)によりますと、賊軍の将となり、壇ノ浦の戦いで捕えられた宗盛・清宗親子ともども、京から鎌倉へ押送され、源頼朝に御簾越しに跪(ひざまず)かされます。朝敵として蔑(さげす)まされた後、京に引き返えされることとなります。その途上、何時首を刎ねられるか恐々としながらも、17歳の清宗に勇気づけられ、漸く篠原の宿に辿り着き、ついに斬首されます。刀を振り下ろす直前に、念仏を止め、「清宗はもう斬ったのか。」と尋ねた瞬間に首が落ちる最期の様子が平家物語で語られています。

最後に思い浮かんだのは、息子清宗の姿であり、平家一門の総大将である前に、子を慈しむ優しい、子煩悩な一父親であったようです。時代は違えても、私たちと同じ、人の親であり、身近にいるような等身大の人物感を覚えました。永遠に残る親子の恩愛を学びとつ

たような気がしました。

今からは、コロナの影響も大きく緩和され、ミュージアム友の会の活動もコロナ以前の状況に戻りそうであります。文化財や史蹟等を巡りながら、親子恩愛の情のように私たちに発信し訴えかけてくれる一種の文化財の持つ力に、今後も触れながら、心を豊かにしていきたいものです。

総会 令和4年4月29日(日) @小松市公会堂

今年度の友の会は、総勢 38 名の方にご入会いただきました。

総会は、新型コロナウイルス感染拡大が収まらぬ中、感染症対策を徹底しながらも 2 年ぶりに開催することができ、14 人の方が参加くださいました。

昨年度の事業報告と今年度の事業計画の承認がおこなわれ、県外への研修を 2 年ぶりに開催することが発表されると、会場は大いに沸きました。



その後は解説会が行われました。

小松市立博物館 企画展「ちょっと昔の装い ～明治・大正・昭和～」では、懐かしの衣服や道具などを見ることができ、当時の装いに想いを馳せました。

宮本三郎美術館では企画展「春夏秋冬～宮本三郎を中心に～」を、本陣記念美術館では特別企画展「美術館に咲く！百花展」では、季節に応じた絵画を中心に鑑賞しました。

春の研修 令和4年5月20日(金)

新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、3年ぶりに開催したバス研修は晴天に恵まれ、20名の方に参加いただきました。

谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館は駐車場がないことから、普段なかなか足を運ぶ機会も限られる中、バスを利用することで初めて訪れたという会員も多くありました。企画展「静けさの創造」では、谷口吉生の建築についての紹介や、迎賓館赤坂離宮和風別館「游心亭」の広間と茶室を原寸大で再現した常設展示などを見学しました。

続いて、国立工芸館を訪れました。令和2年に開館して以降、開館1年半ほどを迎えた時期でしたが、まだ訪れたことがなかった会員もおられました。「未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ展」を見学し、日本の焼き物の美に触れました。



昼食後は石川県立歴史博物館や中村記念美術館、ふるさと異人館など、周辺施設を参加者思い思いのルートで見学しました。「今まで来たことがなかったが、とても良い施設だった」などの声も聞こえ、近場といえど、新たな魅力の再発見のきっかけとなる有意義な研修となりました。

展示解説会 令和4年8月27日(土)

博物館企画展「博物館のうらがわ」、本陣記念美術館企画展「個性派美術展 —コレクションの中できらめく—」、宮本三郎美術館 企画展「宮本三郎先生の優しい絵画教室」を解説とともに見学しました。13名の方に参加いただきました。



展示解説会 令和4年10月29日(土)

宮本三郎美術館特別展「ラクガキ大決戦第2弾！チーム宮本VS小松の親子」で展示されていた、1,000枚を超える「ラクガキ」が壁一面に展示されている風景は壮観でした。

本陣記念美術館では、特別展「町田久美作品展 ー1本の線ー」を見学しました。町田さんには、宮本三郎記念デッサン大賞の審査員を務めていただいているご縁で展覧会を行うことになったということを知りました。作品に込められた思いなどを知り、魅力的な作品に引き込まれるようでした。

博物館では、来年秋に開催される「いしかわ百万石文化祭 2023」のイベントとして、特別展「茶 ー加賀の茶道と茶業ー」が開催され、前田利常を端緒として、小松で発展した茶道と茶業について学びました。利常が小松に裏千家4代の仙叟を茶道の指南役として招いたことで今に続く茶道の隆盛に繋がったことや、茶の種を宇治から取り寄せ茶の栽培を奨励したことでかつての小松で茶業が盛んに行われ、今も残るお茶屋さんなどができたことなどを知り、往時に想いを馳せました。



秋の研修 令和4年11月20日(金)

3年ぶりの開催となった県外へのバス研修は18名の方に参加いただきました。2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が源平の物語を背景にしているということで、そのゆかりの地を求めて滋賀県を訪れました。

天気はあいにくの雨でしたが、行きのバス車内で宮川会長の作成されたDVDを鑑賞し、現地見学への思いを高めながら、バスに揺られること3時間。最初に訪れた妓王寺は、仏

御前の物語に登場する妓王の生まれ故郷である、滋賀県野洲市にありました。現地の方や観光協会の方などから説明を聞き、妓王が清盛に整備させた妓王井川の話など、いまでも妓王の足跡がこの地に残っていると実感しました。



昼食後は、滋賀県守山市の佐川美術館を訪れました。常設展示や「水木しげるの妖怪百鬼夜行展～お化けたちはこうして生まれた～」を見学しました。

その後、「平家終焉の地」を訪れ、行きの車内で見た内容を思い返しながら平宗盛・清宗親子に想いを馳せ、世の無常を感じました。

3時間のバスでの帰路の途中、参加者のみなさまに感想を書いていただいたので、一部をご紹介します。

秋雨に濡れてまたよし近江旅

秋雨や 平家の最後 石一つ

吾妻鏡現代語朗読を聞いてから宗盛の生涯人となりを知って2基のお墓の前に立った時「祇園精舎の鐘の声…」が浮かびました。

めったに行けない所をめぐることができありがとうございました。最近ではコロナ禍でどこへも行けずに寂しい思いをしていた所、この旅で心も身体もリフレッシュできました。

個人ではなかなか来辛くそういったいみでも小松仏御前ともゆかりあり友の会でこれてよかったと思います。どうも有難うございます。

揺れる車内でしたが、みなさまご協力ありがとうございました。

なお、当初参加予定だった方の中には、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて不参加となった方もおられ、来年度は予定通り開催・参加できることを願うばかりです。

会員発表「国府の歴史探訪」

令和4年12月10日(金)

「国府の歴史探訪」をテーマとして、会員の高 酋外さんによる発表がありました。一般参加の方も含めて17人の方に参加いただきました。

2023年に加賀立国1200年を迎えるにあたって、国府地区の史跡や高さんが会長を務める国府公民館歴史サークルでの取り組みについて、スライドを用いて紹介いただきました。お手製のマップや写真、冊子なども会場に展示されました。



発表終了後も参加者で盛んに意見交流が行われるなど、充実した会員発表となりました。高さんありがとうございました。

展示解説会 令和5年2月25日(土)

9名の方に参加いただきました。

本陣記念美術館企画展「本の中の美術品たち」を見学しました。本などで紹介されている美術品が展示されており、その文章と実際の作品を愉しむという、新しい切り口の展覧会でした。

宮本三郎美術館企画展「宮本三郎の軌跡」では、ニューフェイスの齋藤学芸員に解説していただきました。宮本三郎の生涯と、その時期の作品の特徴などを比較しながら見ることができました。

博物館では、企画展「しらべてみよう！むかしのくらし」を見学しました。懐かしい道具のほか、写真のスライドが流れており、懐かしい気持ちになりました。特に「こまビル」の映像が写し出された際には、会場は大いに沸きました。